

長野県松本蟻ヶ崎高等学校 2025（令和7）年度 重点目標関係者評価結果

【本年度重点目標】 評価はA（十分）、B（おおむね十分）、C（やや不十分）、D（不十分）の4段階		
評価の観点	関係者 評価 (自己 評価)	成果と今後の課題・改善策
・文武両道を目標とした時間の有効活用を図る		
①生徒が自ら具体的な学習目標を持つことができるよう、教科指導と進路指導を行うことができたか。	B (B)	<ul style="list-style-type: none"> ・年内入試が多くなっている現状がある。早めの進路指導や総合型選抜への対応を検討してはどうか？ ・主体的に学習する生徒は過半とは言えない。 ・具体的な学習目標は、希望進路の明確化に伴う形で、生徒の学習に対する取り組み方がよい方向に変わってきている。蟻高生の大多数が勉強（受験）モードに切り替わる時期がデータになると、職員全体でどのような蟻高流の指導の流れを作るのか検討・調整していく議論のテーマになりそうだ。・挨拶ができるよう今後指導したい。 ・全体への声かけ等はできたが、個々の対応までは十分とは言えなかった。 ・具体的な学習目標を立てられるように現在の自分の理解度を測れる小テストや問題演習などの量をもう少し増やす取り組みをした方がよい。
②部活動や生徒会活動に積極的に参加しながらも、家庭学習の時間を確保できるよう環境づくりを進めることができたか。	B (B)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は授業に部活に生徒会によく頑張っているが、学校生活が忙しすぎて、家庭での主体的な学習までできるような状況にないのではと思う。 ・部活動については土日のどちらかは休みとなるようにできないか。遅くまで練習している部活と、定時に帰宅する部活の双方が存在する ・課外活動が長時間にわたってしまうことがあり生徒に負担がかかった ・休日のうち、1日は休みを取り入れるように学校全体で働きかけていく必要がある。それぞれの繁忙期は仕方ないが、閑散期には休みを設定していく。通年で安定した休みを持っていない職員や生徒が一定数いる。 ・部活動のあり方、方針も含めて検討中・部活延長や考査直前の部活動について、なんとなく制約が不明瞭になってきている気がする。考査前後〇日に発表や試合がある場合は職員会で審議し、学校として許可など明確にラインを決めておいた方がよいかもしれない。 ・各教科で出している課題の量や出し方を見直す時期に来ているのでは？もっと自分がやりたい学習に時間をさける学習環境にしていくべきだと思う。また、課題の多さが、心を病んでしまう生徒が増えている一因になっているような気がする。 ・家庭学習の時間を確保することで、部活動と生徒会活動の実績及び姿勢が向上することを伝え、生徒を伸ばしていきたい。
・多様な希望に沿った進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む		
③キャリア教育の観点から、生徒の主体性を喚起し、協動的・発展的助言をすることができたか。	B (B)	<ul style="list-style-type: none"> ・進学者が多いので、その先の職業との繋がりを意識することは難しさもあると思う。 ・キャリア指導より進学指導となっている ・生徒の希望や思いなどを、面談を通じて一緒に考えながら、広く可能性を探ることを意識して向き合っているつもり。まだまだ知識不足なことも多く、みなさんにはいつも助けられている。
④進路実現にかかわる有効な情報・資料等を的確に提供することができたか。	B (B)	<ul style="list-style-type: none"> ・classroomへの配信だけでなく、特に重要なものは紙で配布してもらえるとクラスでも読み合わせや共有しやすい。逆に資料が多すぎる気配がある ・面談など手厚い・自らの知識不足・情報が膨大。こちら側で講演会等から広がる情報がある程度管理するよかつたと思う。 ・各大学も、受験方法や試験内容が多様化し、去年とは違う方式を新たにしている、などのことも多く、生徒に提供するための

		進路情報を探すのもますます大変になってきたなど感じる。学校によっては、共通テスト後に、担任・進路・ベネッセを交えて出願検討会をやっているところもあるようだ。準備がかなり大変そうだが、話を聞くと、担任にとっても家庭にとっても、かなり心強い取り組みだなと感じた。 ・進路情報について、来たものをそのまま生徒に流すだけではなく、もっと抽出して出すべきではないかと思う場面があった。
⑥外部の講師による講演会等を実施し、生徒の進路意欲を喚起することができたか。	B (B)	・外部講師の話で蟻高の実情がわかった・講演会の実施は良かったが、生徒の進路意識については、難しかった。 ・2学年で今年度設定していただいた講演会は、いずれも心に残りやすい話をしてくださり、大部分の生徒にとってよい機会になったのではないかと思う。
・主体的な挨拶と清掃に取り組む		
⑥自然な挨拶が出来る校風をめざし、良好な人間関係を構築することができたか。	B (B)	・挨拶のできない生徒がふえた ・状況に応じた挨拶をしたい・授業での関りの有無に関わらず、挨拶ができる生徒もいれば、目が合ってもなにも言わない、スマホ見歩きでぶつかりそうになるまで気が付かない、などもあり、一長一短。 ・講座別授業になったことが原因とは限らないが、今年度2学年は、かなり多くの生徒が人間関係の再構築や環境の変化への対応がうまくいかず、元気をなくしてしまった生徒が非常に多くいたように思う。必修科目など、講座別にする必要性があまりない授業を中心に、いくつかクラス別の授業があることで、救われる生徒も今後は増えていくのかなと感じた・職員を含め意識を改革すべき。
⑦SDGsに対する意識を喚起し、無駄の削や、ゴミの処理量を減少させることができたか。	B (B)	・部室周りが汚い ・裏紙の利用や不要な物の片づけ等出来ることはまだあると思う ・電気エアコン不要時電源おとしたい ・必要のない印刷物が多い気がする。生徒が確認するだけで良い内容だったら、クラスルーム等で対応する。 ・SDGsというより、ゴミの削減をうたいましょう。 ・街中の学校だから、ごみ処理はまとめて処分もOK、のような実態が実際あるのだとは思いますが、プラと燃えるごみの分別や、ペットボトルは洗って捨てる、といった取り組みが蟻高にあってもいいのかなとも思う。
⑧全員が自主的に清掃を行えるよう徹底することができたか。	B (B)	・監督がいないと手を抜くときがある ・雑巾がけいやがる ・分担場所に行き、ただ何気なく清掃をしている生徒が増えている。その場所を本気できれいにしようと細かいところまで気配りができている生徒はほんのわずかである。 ・掃除があるから行うのではなく、日ごろ使っている校舎をきれいにして環境を整えること、感謝の気持ちを込めて掃除をすることを、生徒に呼び掛けていきたい。
・安心、安全な学校作りを目指す		
⑨安心、安全の学校作りをするため、懇談会等を利用して状況把握をすることができたか。	B (B)	・我が子可愛さのあまりに、自己主張の強い保護者がクラスに数名いると、担任としてはなかなか話が通じにくく苦勞を感じる。 ・夏は暑く冬は寒い校舎なので、生徒各自で対応してくださいと保護者に依頼済 ・懇談会に限らず、保護者との連絡のやりとりなど、必要なことを日々対応に追われている。約10人に1人が通信制を選択するというデータにもあるように、子どもたちの変化を蟻高でも感じる。 ・地区PTAや懇談会が難しくなっている。
⑩いじめ・体罰の未然防止のため、常に生徒・職員の意識啓発に努めることができたか。	B (B)	・知る限りでは問題ないと思う。

【学校関係者評価委員からの意見等】

- ・地域における松本蟻ヶ崎高校への期待は非常に高いことから、引き続き“蟻高らしさ”を全面に出した活動を継続していただきたい。
- ・文武両道はこれからも蟻高の特色としてやってほしい。
- ・国公立や有名な大学にと目先のことに目標を持つよりも、その先の職業とのつながりを意識して進学してほしい。
- ・日々、社会が変化している中で、生徒への接し方等に工夫、努力をしている先生の熱意が感じられた。
- ・蟻高は全体として問題も少なく良くまとまっているように感じる。
- ・「校長雑感」は生徒の様子がよく分かり楽しく読ませていただいている。
- ・進路実現に関して、入試制度の多様化に対応できる指導を積極的にしていただきたい。
- ・国公立大学、有名私立大学への進学者増加を切望する。
- ・生徒会活動も活発で生徒たちが輝いていると感じる。
- ・部活動や生徒会の地域貢献において、夏の「ぎんが祭」、書道部のパフォーマンスや各地区への作品展等、生徒たちが進んで取り組んでくれるので大変ありがたい。
- ・概ね安定した状況ではあるが、課題は多岐に渡り、全てにおいて対応していくには限界があると感じる。教育予算も人的リソースも限りがある中で改善されないまま時間が経過してしまうことが心配である。